

INSIGHT ソフトウェア

取扱説明書 v5.0.65 以上



お客様へ

- ・このたびは、INSIGHT をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございました。
- ・使用される方および管理される方は、必ずお読みください。
- ・本製品をロードセルと組み合わせて使用する場合は、各取扱説明書を参照してください。

目次

1. はじめに	3
2. ご使用の前に	4
2-1. 概要	4
2-2. 必須条件	4
2-3. コンピューターのシステム要件	4
2-4. インストール	4
3. USB ドングルの取り付け	5
4. INSIGHT の実行	6
5. INSIGHT の有効化 (Activate)	7
6. ロードセルの設定	8
7. シミュレーションモード	10
8. プロジェクトのセットアップ	11
8-1. プロジェクト名とその説明 (Project Name and Description)	11
8-2. 単位 (Units)	12
8-3. ログの種類 (Logging Type)	12
8-4. ログ記録間隔 (Logging Interval (ms))	12
8-5. ログ記録のディレクトリ (Logging Directory)	12
8-6. RF チャンネル (RF Channels)	12
8-7. 過負荷パーセンテージ (Overload percentage)	12
9. プロジェクトのロードセル	14
9-1. プロジェクトのロードセルの編集 (Edit Project Load Cell)	14
9-2. ロードセルのシリアル番号 (Load Cell Serial Number)	15
9-3. 数式 (Formula)	15
9-4. 説明 (Description)	17
9-5. アラームの設定 (Alarm Settings)	17
9-6. 詳細設定 (Advanced Settings)	18
10. ロードセルのデータ取得	19
11. ロードセルの表示アイコン	22
12. ロードセルのチャート機能	23
13. 視覚化機能	25
14. ロードセルのレポート機能	26
15. 重心 (CoG) 計算機能	28
16. プルーフテストプラス (PTP) 機能	31
17. 発行者情報の入力	32
18. 新規プルーフ試験のプロセス	34
19. 顧客情報の入力	35
19-1. エンジニア情報の入力	37
19-2. プルーフ試験の入力と実行	37
20. プルーフテストプラス (PTP) の実行	39

20-1. 証明書の表示方法 (View Existing Certificates)	40
20-2. 各種データベースの定義	42
21. データのログ記録	43
21-1. ログ記録データファイルのフォーマット	43
21-2. バックアップおよび復元機能	43
22. アイコンの説明	44
23. 品質保証書	45

この取扱説明書は、製造元であるクロスビー・ストレートポイント社が発行した英語版取扱説明書を、弊社キトーが日本語に翻訳したものです。
この取扱説明書は事前の予告なく、一部内容を変更することがあります。

1. はじめに

- INSIGHT ソフトウェアは、付属の SW-D USB ワイヤレス dongle を使用して、最大 126 台のストレートポイント社製ワイヤレスロードセルを Windows タブレットまたはノートパソコンに同時接続することができます。
- 商標
Windows® 10 または Windows® 11 は、米国または他の国における Microsoft 社の登録商標または商標です。
- この取扱説明書の内容で、ご不明な点がございましたら最寄りのキトーまでお問い合わせください。
- お客様が末永く、本製品を安全にご愛用いただけますよう、キトーは心より願っております。
- 製品情報の記録
テクニカルサポートのカスタマーサービスが必要になった場合に、迅速に対応できるよう、以下の情報を記入してください。

ソフトウェアバージョン:			
記録媒体:	USB メモリースティック <input type="checkbox"/>	ダウンロード <input type="checkbox"/>	
購入日:			

警告表示の説明

本取扱説明書において、以下の記号が使用されます。



注記や注意が必要な内容を記載しています。



本ソフトウェアの正しい機能またはロードセルのモニタリングに必要な重要な作業、指示、または情報を記載しています。



指示に従わなかったり回避したりすると、ケガや物的損傷が生じる可能性がある潜在的に危険な状況を記載しています。

2. ご使用の前に

2-1. 概要

本 INSIGHT ソフトウェアパッケージには以下の機能があります。

- ハンドヘルドディスプレイと同様の表示機能（ゼロリセット・オーバーロード・アラーム等）
- ロードセルデータ測定値のチャート化、ログ記録、およびレポート作成
- 現場の写真と組み合わせて、ロードセルの測定状況を視覚化
- 重心位置（COG）の測定と計算、レポートの作成
- プルーフロード試験を実行し、自動で証明書を作成

2-2. 必須条件

INSIGHT ソフトウェアの使用には、USB ドングル（SW-D）と少なくとも1つのロードセルが必要になります。

2-3. コンピューターのシステム要件

- プロセッサ：3GHz 以上、RAM：4GB
- Windows® 10 または Windows® 11（言語オプションは必ず英語を選択してください）
- USB ポート（ハブは不可）

2-4. インストール

以下のいずれかの方法で開始します。

- SW-D USB ドングルに付属のカードに記載された QR コードを読み取り、お使いのスマートフォンにソフトウェアをダウンロードして、ダウンロードが完了したら、そのファイルをオンラインまたはオフラインの PC に転送する。
- またはウェブブラウザのアドレスバーに下記のウェブリンクアドレスを入力して、お使いの PC に直接ソフトウェアをダウンロードします。

URL: www.straightpoint.com/software/insight.zip

ダウンロードが完了したら、ダウンロードしたファイルをダブルクリックします。ソフトウェアが自動的にインストールされます。

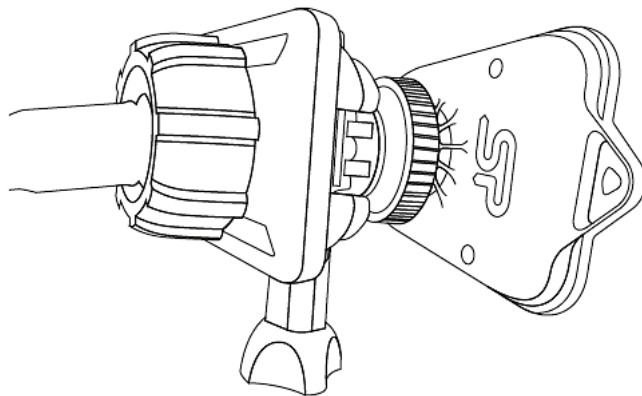
お使いの Windows のバージョンが警告メッセージを表示して、インストールの許可を求めてくる場合があります。その場合は、ソフトウェアのインストールを続行してください。

3. USB ドングルの取り付け

USB ドングルをPCに差し込みます。
ドライバをインストールする必要
はありません。



USB ドングルとロードセル間の見
通し線を改善するために、スポーツ
／アクションカメラ（Go-pro など）
の取り付け・固定キットに USB ドン
グルを取り付けることが可能です。



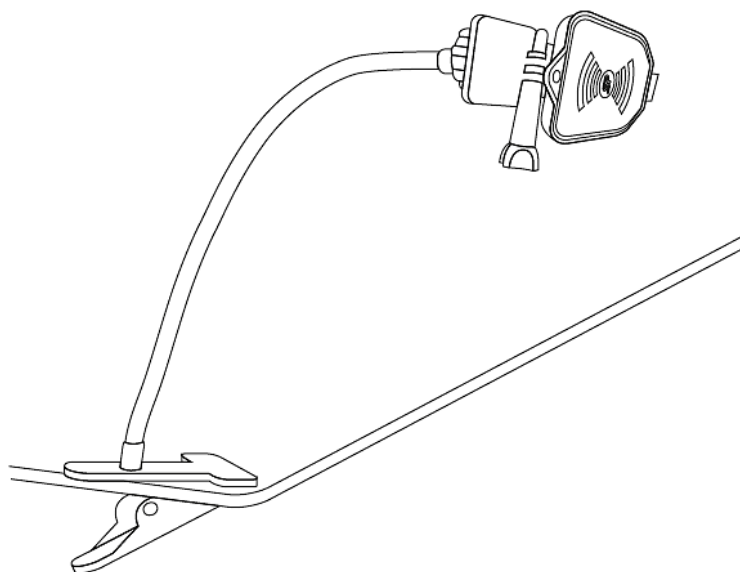
その後、dongleを USB 延長ケー
ブルで PC に接続することができます。

dongleとロードセル間の直接の
見通し線（障害物に遮られない経
路）を確保できるように、取り付け
キットでdongleをセットします。

注意：ロードセルが1つ以上の RF
チャンネルに設定されている場合、
複数のdongleを使用することが
できます。

dongleに関連するチャンネルの
割り当ては、自動的に実行されま
す。

注意：通常、ロードセルは工場出荷
時にチャンネル 15 に設定されてい
ます。



4. INSIGHT の実行

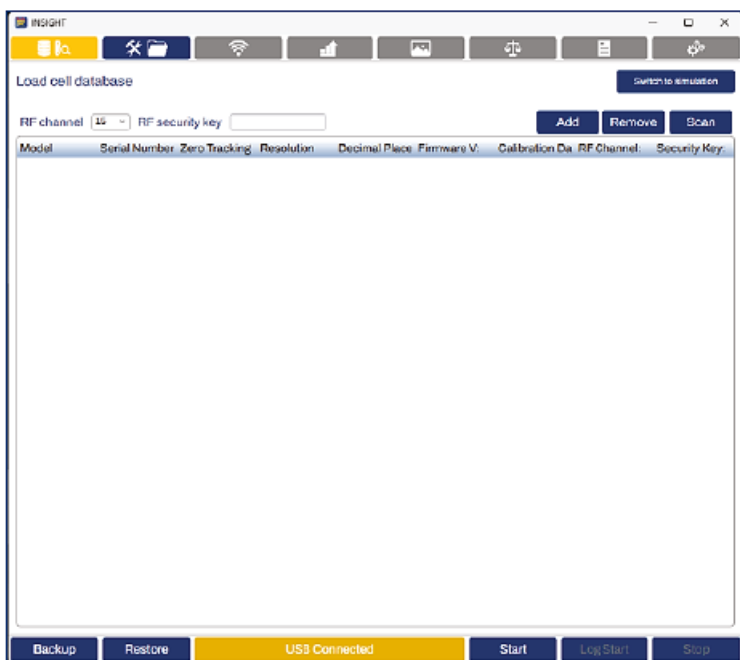


INSIGHT アイコンのショートカットを作成するか、Windows の検索バーに「INSIGHT」と入力して、INSIGHT アイコンをダブルクリックして実行します。

次の画面が短時間表示されます（以下を参照）。INSIGHT の有効化（Activate）が必要な場合は、7 ページの「INSIGHT の有効化（Activate）」を参照してください。



上記の画面の後に、以下の画面が表示されます。



注意：USB ドングルが正しく挿入された場合、画面の一番下に橙色の「USB 接続済み（USB Connected）」が表示されます。

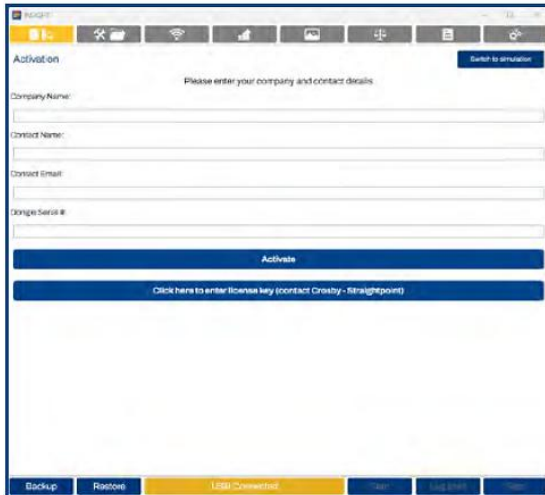
5. INSIGHT の有効化 (Activate)

重要：INSIGHT を実行するためには、INSIGHT の有効化 (Activate) を行う必要があります。

※1つのドングルに対し、最大3台までPCにインストールができます。

有効化を行うには2つの方法(オンライン、ライセンスキーの使用)があります。

通常は、オンラインの方法が使用されています。

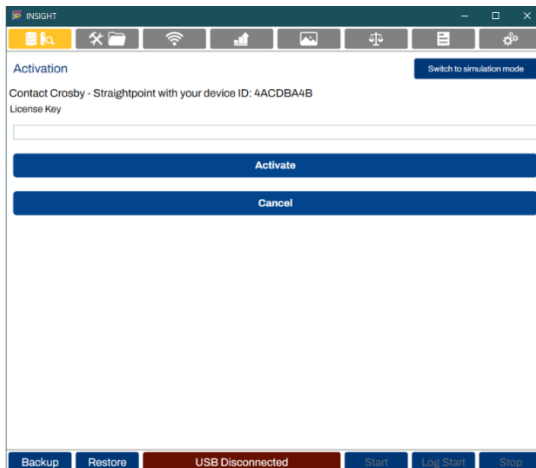


オンラインでの申請

オンラインの方法では、画面内に情報を入力して、「有効化 (Activate)」をクリックします。

クロスビー・ストレートポイント社にメッセージが送信されます。お客様の情報の確認後に、有効化が承認されます。画面が閉じて、INSIGHT ソフトウェアの使用を続けることができます。

注意：お客様の情報の確認作業には、数日間を必要とする場合があります。そのため、本ソフトウェアを使用する必要がある場合は、余裕をもって有効化の申請を行ってください。



Eメールでの申請 (ライセンスキーの使用)

ライセンスキーを使用することで、INSIGHT ソフトウェアをオフラインで使用可能にします。この場合、年に1回、有効化を行う必要があります。

<ライセンスキー発行>

上記画面で Click here to enter license key(contact Crosby-Straightpoint) (ライセンスキーを入力する) ボタンをクリックすると左画面が表示されます。

画面上部の unique ID(左画面では4ACDBA4B)を確認したら、会社情報、連絡 E メールアドレスを記入の上、activate.sp@kitocrosby.com 宛てに E メールを送ってください。その後、ライセンスキーの入力用コードが E メールで提供されます。

<ライセンスキー有効化>

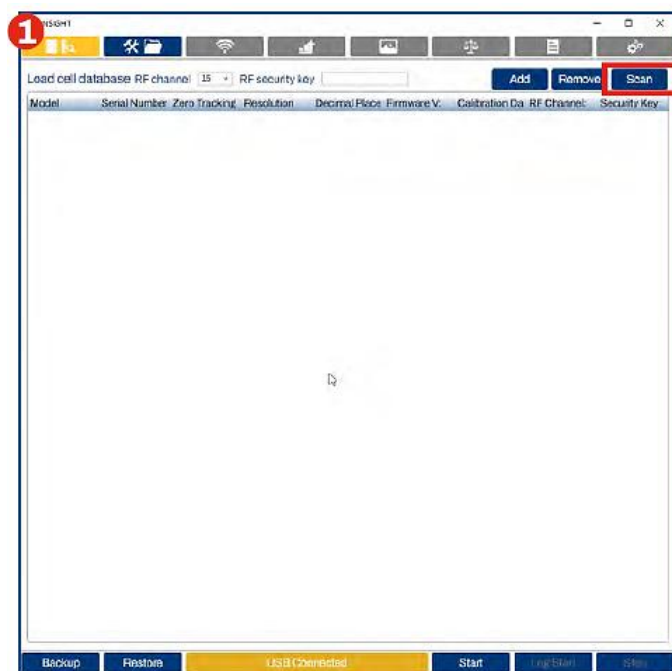
ライセンスキーを入力するために、Click here to enter license key(contact Crosby-Straightpoint) ボタンを選択すると、左記の画面が表示されます。

提供されたコードを入力して、「有効化 (Activate)」をクリックします。画面が切り替わり INSIGHT ソフトウェアを使用することができます。

6. ロードセルの設定

INSIGHT の機能を活用する前に、ロードセルのデータベースを作成して、ソフトウェア上で使用できる状態にする必要があります。

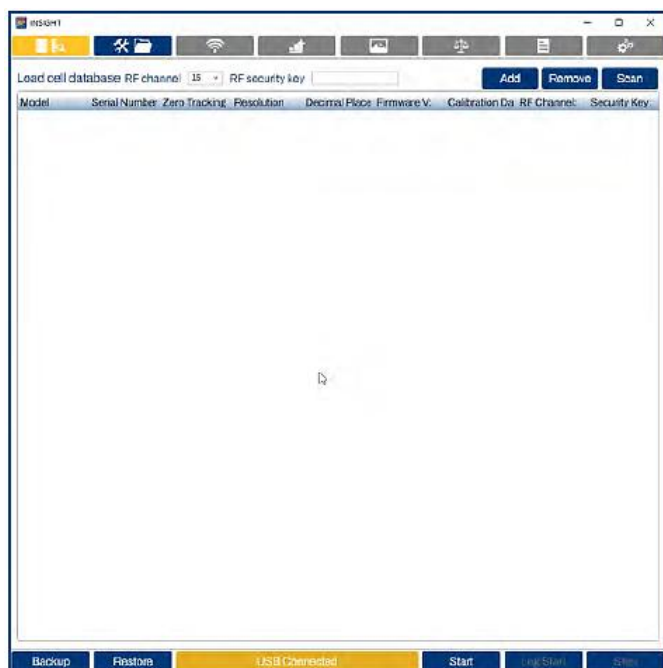
少なくとも 1 つのクロスビー・ストレートポイント社の TS ロードセルが使用できる状態であればなりません。



INSIGHT 画面の左上隅にあるロードセルのデータベースのアイコンを選択します。

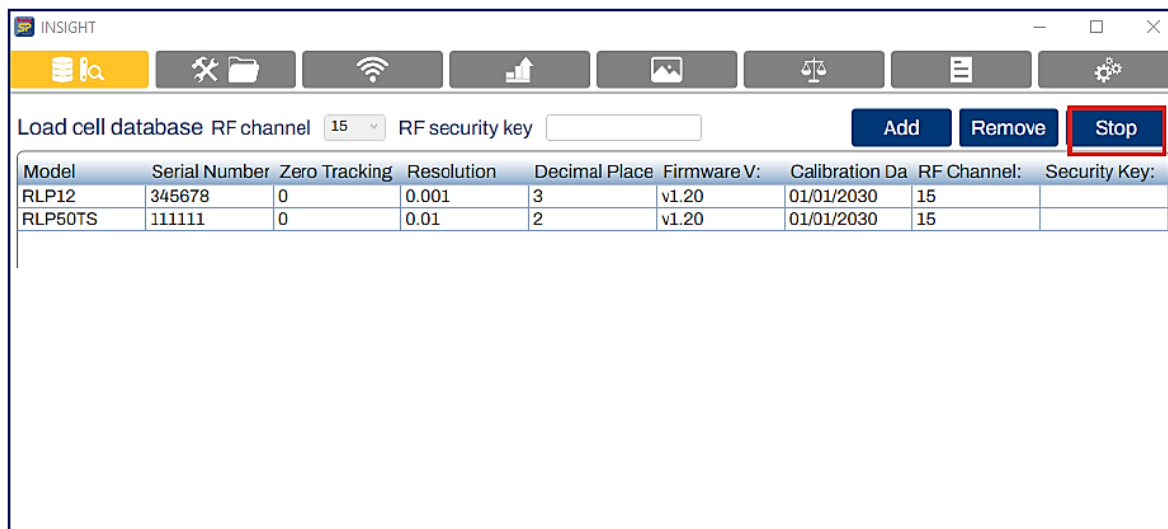
ロードセルに電源が投入されている（電池が取り付けられている）状態で、右上隅の「スキャン(Scan)」ボタン（上図の赤枠内）を選択します。

お使いの RF チャンネルまたはセキュリティキーが「RF チャンネル (RF Channel)」のドロップダウンリストの選択肢に表示されたものと異なる場合、正しく設定を行わないとスキャンを開始することができません。正しいチャンネルまたはキーに設定されていないと、使用するロードセルが表示されません。初期設定のロードセルのチャンネルは 15 です。



スキャンが開始すると、1分以内に使用可能なロードセルがロードセルのデータベースのウィンドウに表示されます。

ウィンドウにロードセルが表示されたら、「**停止 (Stop)**」ボタン（下図の赤枠内）を選択して、スキャンを終了します。



「**停止 (Stop)**」ボタンをクリックしないと、その他のどの項目も編集することができません。

入力項目を反転表示させるために、その項目をクリックしてください。データベースから削除したいロードセルがある場合は、そのセルを反転表示させてから「**削除 (Remove)**」ボタンを選択します。

ロードセルが表示されない場合は、「**追加 (Add)**」ボタンを選択して手動で追加することができます。そのためには、新規の空欄の入力項目を選択して、バージョン番号以外の各フィールドの情報を追加します。データは自動的に保存され、情報の入力中に「**ロードセルの保存完了 (Saved load cell)**」のメッセージが表示されます。

ロードセルのデータベースの選択肢に戻り、必要に応じて、さらにロードセルを追加することができます。

必要なロードセルがデータベースに追加され、INSIGHT ソフトウェアの他の機能を使用することができます。

注意：1つの dongle が、同一のチャンネルとセキュリティキーで1つ以上のロードセルを操作します。セキュリティキーが異なるロードセル、または異なるチャンネル上にロードセルがあり、同一のプロジェクトにおいて、同時にこれらのロードセルを使用する場合、追加の dongle (1つ) が必要です。

追加の dongle を使用するには、上述のスキャン作業を繰り返して、必要に応じて、RF チャンネルとセキュリティキーを変更します。

7. シミュレーションモード

本ソフトウェアを試行したい場合、ロードセルや USB ドングルを必要とせずに行うことができます。

ロードセルのデータベース画面の右上に、シミュレーションモードを実行するスイッチがあります。

Switch to simulation mode

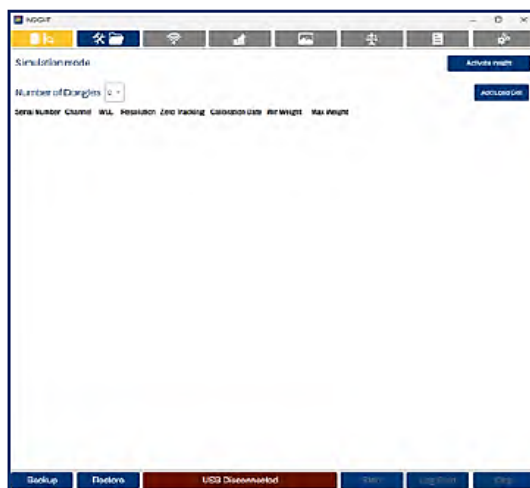
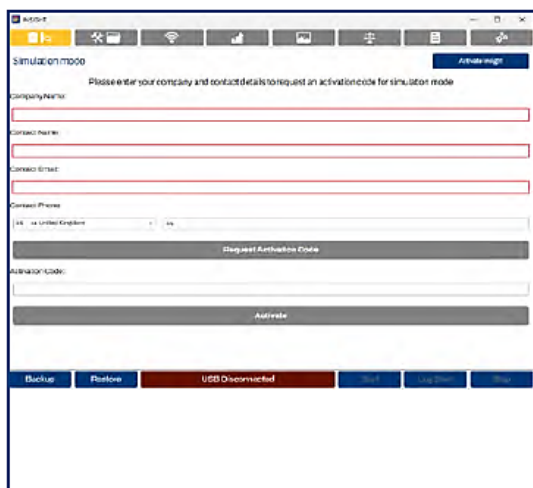
左のアイコンをクリックして、シミュレーションモードに移行します。

シミュレーションモードを初めて試行する場合、会社の情報を入力して、有効化のためのコードを入手してください。コードはEメールで送信されます。コードの入手後、入力欄にコードを入力し、「有効化 (Activation)」をクリックして、シミュレーションモードを起動します。

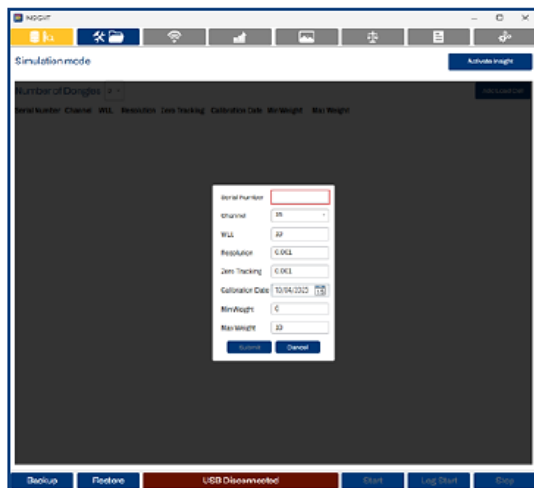
ドングル数のドロップダウンメニューを変更して、開始します。

この変更により、1つ以上の USB ドングルが接続された状態でシミュレーションを行います。

次に、「ロードセルを追加 (Add Load Cell)」ボタンをクリックします。



シリアル番号を入力して、使用するパラメータを調整します。



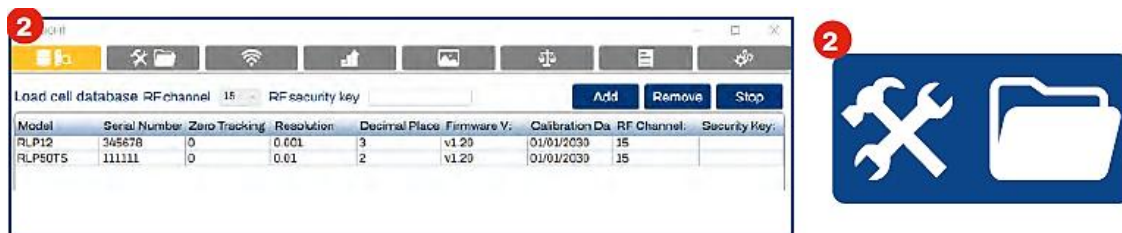
操作中に、シミュレーション中のロードセルの負荷に対する警告がウィンドウの右側に表示されます。



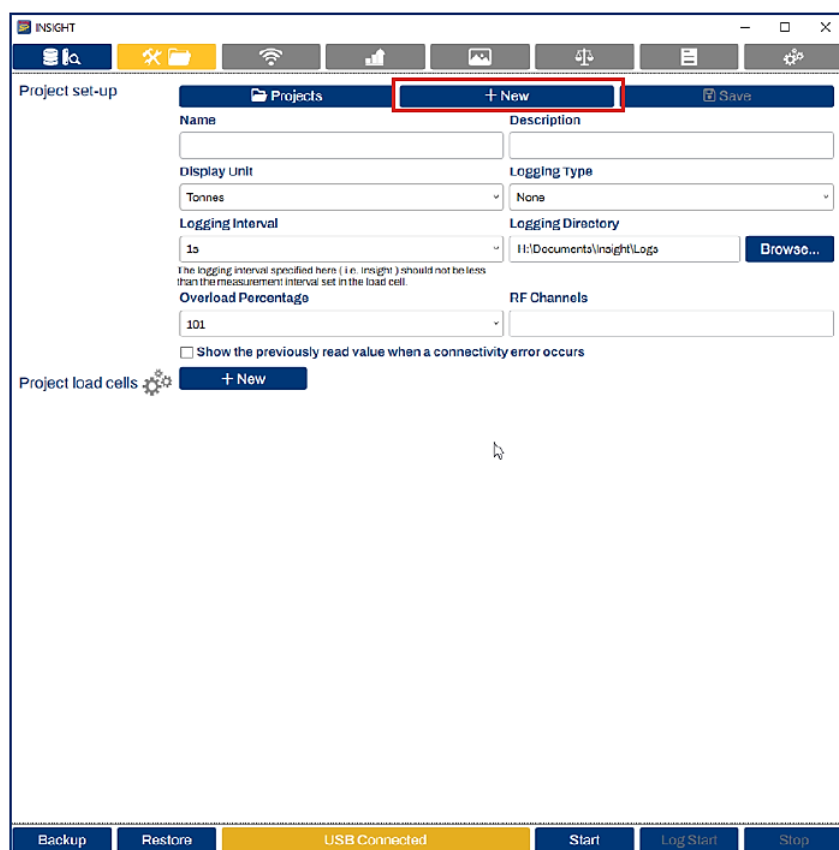
8. プロジェクトのセットアップ

ロードセルのデータベースヘデータを追加したら、次はプロジェクトの作成です。ロードセルデータの表示、COG(重心)の計算、プルーフ試験プラスなどの他の機能にアクセスする前に、プロジェクトの作成を行う必要があります。プロジェクトの作成により、ロードセルのデータベースから1つ以上のロードセルがプロジェクトに割り当てられます。

プロジェクトを作成済みの場合は、「プロジェクト (Projects)」フォルダ (以下に表示) を選択してから、「プロジェクト (Projects)」フォルダのアイコンを選択して、ウィンドウ内にプロジェクトのリストを表示します。次に、1つのプロジェクトをクリックして選択することができます。必要に応じて、プロジェクトの詳細を編集可能です。



新規プロジェクトを開始するには、「+新規 (+New)」(下図の赤枠内) をクリックします。この作業は、データフィールドへの入力を行う前に完了する必要があります。



「+新規 (+New)」をクリックしたら、以下の情報を入力してください。

8-1. プロジェクト名とその説明 (Project Name and Description)

プロジェクト名 (「Name」) とその説明 (「Description」) をプレーンテキストで入力します。

8-2. 単位 (Units)

プロジェクト用の単位として、トン/キログラム/キロニュートン/ポンドのうちのいずれかをドロップダウンリストから選択します (「Display Unit」)。これらの単位は、ロードセルのデータベース内に表示されている単位よりも優先されます。

8-3. ログの種類 (Logging Type) (ドロップダウンリストから選択)

- 「記録なし (None)」

ログは記録されず、ログ記録データファイルは作成されません。

- 「記録あり (Continuous)」

ロードセルからのデータがすべて、ログ記録間隔でデータファイルに記録されます。

ログの記録は「ログ開始 (Log Start)」ボタンを押して開始する必要があります。

- 「手動で記録 (Manually Triggered)」

「ログ (Log)」ボタンを押した場合にのみ、個々のデータ値がデータファイルに記録されます。

- 「アラーム条件あり (At Alarm)」

アラーム条件を超過したデータ値がデータファイルに記録されます。

ログの記録は「ログ開始 (Log Start)」ボタンを押して開始する必要があります。

- 「アラーム条件を超過中 (While In Alarm)」

指定したアラーム条件を超過している間にデータ値がデータファイルに記録されます。

ログの記録は「ログ開始 (Log Start)」ボタンを押して開始する必要があります。

8-4. ログ記録間隔 (Logging Interval (ms))

データをデータファイルに記録する間隔を入力します。これにより、ロードセルに対して選択された測定間隔が上書きされます。ロードセルの測定間隔より分解能が大きいログ記録間隔は選択しないでください。

ログ記録間隔はミリ秒単位のため、1000ms の値が 1 秒となります。

8-5. ログ記録のディレクトリ (Logging Directory)

データファイルを保存するディレクトリのパスを入力します。このパスは COG レポートにも使用されます。

注意：初期設定のパスはユーザーのプロファイルにリンクされており、通常は以下の通りです。

C:\Users\YourName\Documents\Insight\Logs

お使いのネットワークでは、マッピングが異なる可能性があります。

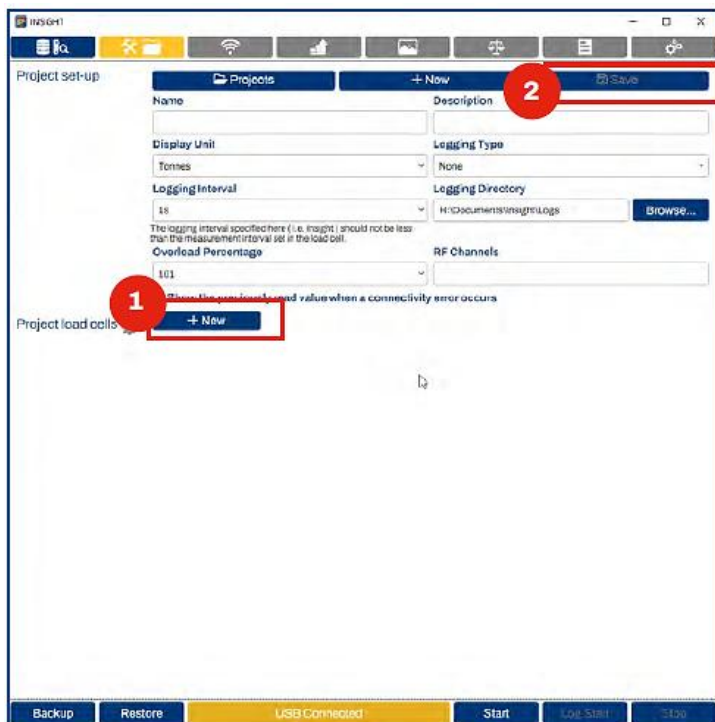
8-6. RF チャンネル (RF Channels)

初期設定では、システムは RF チャンネル 15 を使用し、セキュリティキーのフィールドは空欄の状態になっています。これらの値はプロジェクトに最初に追加されたロードセルから反映されるため、編集はできません。

8-7. 過負荷パーセンテージ (Overload Percentage)

ロードセルの W.L.L のパーセンテージです。このパーセンテージを超過すると、負荷値の代わりに「過負荷 (OVERLOAD)」のメッセージが表示されます。初期設定では、値は 101 に設定されています。この機能をオフにするには 0 (ゼロ) に設定します。

必ず「保存 (Save)」ボタン (下図の赤枠内) を選択してから他の表示に移動してください。



1
接続エラーが発生した場合、前回の測定値が表示されます。

ロードセルとの通信タイムアウトエラーが発生した場合に表示される現在の値を表示するために、このチェックボックスにチェックマークを入れます。チェックマークを入れないと、タイムアウトエラーが発生して、ダッシュ記号 (-) が表示されます。この作業は、複数のロードセルを接続し、タイムアウトエラーが一時的に発生する可能性がある場合に有効です。

2
必ず「保存 (Save)」ボタン (赤枠内) を選択してから他の表示に移動してください。

9. プロジェクトのロードセル

データベースにあるロードセルは、プロジェクトと関連付けられている必要があります。プロジェクトのロードセルの「+新規 (+New)」ボタンを選択して行います。

1つのロードセルの情報を入力して保存したら、「+新規 (+New)」ボタンでさらにロードセルを追加することができます。

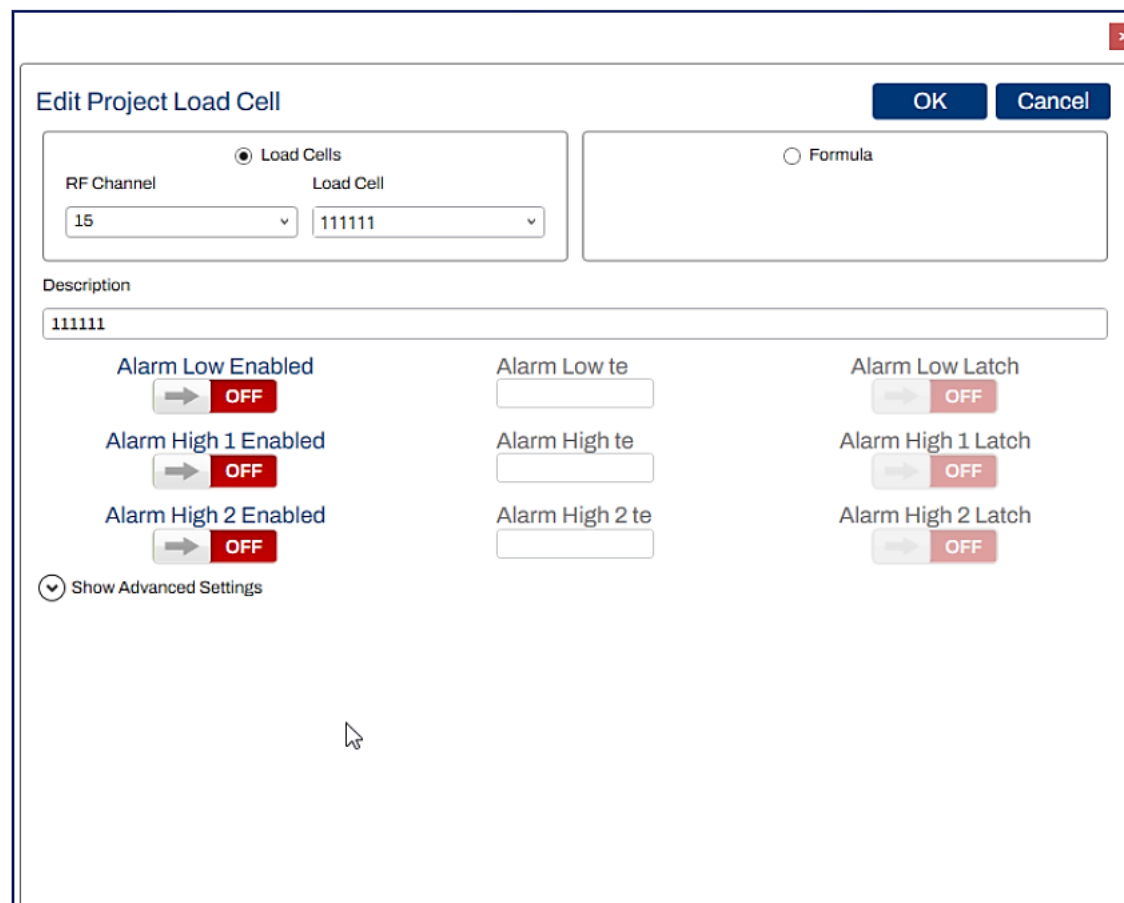


「プロジェクトのロードセルの編集 (Edit Project Load Cell)」のウィンドウが表示されます。

9-1. プロジェクトのロードセルの編集 (Edit Project Load Cell)

この画面内で、プロジェクト用のロードセルを選択するか、ロードセルに基づく数式を使用することができます。また、アラーム、COGの詳細、およびその他の設定のセットアップも行うことができます。

必ず「保存 (Save)」ボタンを選択してから他の表示に移動してください。

A screenshot of the 'Edit Project Load Cell' dialog box. The dialog has a title bar with 'Edit Project Load Cell' and 'OK' and 'Cancel' buttons. Inside, there are two radio buttons: 'Load Cells' (selected) and 'Formula'. Under 'Load Cells', there are two dropdown menus: 'RF Channel' with '15' selected and 'Load Cell' with '111111' selected. Below these is a 'Description' text field containing '111111'. There are three rows of settings, each with an 'Enabled' toggle (all set to 'OFF'), a 'te' input field, and a 'Latch' toggle (all set to 'OFF'). At the bottom left, there is a 'Show Advanced Settings' checkbox which is checked. A mouse cursor is visible near the bottom center of the dialog.

9-2. ロードセルのシリアル番号 (Load Cell Serial Number)

ロードセルのデータを表示するなどの際に、アクセスして入力する必要があるのはロードセルのシリアル番号のフィールドのみという場合が多くあります。このオプションを使用して、データ表示または COG 計算のために、ロードセルをプロジェクトに関連付けます。プロジェクトに追加されたロードセルもプルーフ試験のセクションで一覧表示されるため、ユーザーは必要なロードセルをそのリストから選択して、プルーフ試験のアプリケーションに使用することができます。

ラジオボタンは「ロードセルのシリアル番号 (Load Cell Serial Number)」に初期設定されていますが、数式 (Formula) を選択した場合は、ロードセル (Load Cells) を再度選択します。

ロードセルのシリアル番号のオプション内のドロップダウンフィールドを選択すると、ロードセルのデータベースからシリアル番号のリストが表示されます。ドロップダウンリストから、表示されたロードセルのうち、プロジェクトで使用するロードセルを1つ選択します。この作業により、ロードセルがプロジェクトと関連付けられて、ロードセルのデータ表示および COG 計算で使用できるようになります。

初期設定では、説明 (Description) のフィールドはロードセルのシリアル番号と同一ですが、このフィールドに文字を自由に入力することができます。

9-3. 数式 (Formula)

ロードセルのデータ測定値を直接使用する (前ページを参照) 代わりに、ロードセルのデータ測定値に基づく数式を使用することができます。換算係数を用いた特別な単位を使用する必要がある場合や、複数のロードセルの合算値が必要な場合に有用です。

数式中で使用するロードセルは、シリアル番号を括弧内に直接入力する (例: [123456]) ことができます。あるいは、ドロップダウンリストのロードセルのシリアル番号からロードセルを選択し、「数式 (Formula)」ボタンをクリックして、そのロードセルを数式表示させることができます。

例えば、トン単位とするデータ測定値をポンド単位に変換する数式は、以下のようになります

[111111]*2204.62

※ロードセルのシリアル番号は括弧内に示されています ([111111])。

4つのロードセルを合計するには、以下の数式を使用します。

[111111]+[123456]+[123411]+[123422]

この解析ツールでは、以下の記号を使用します。

+ {プラス}

- {マイナス}

/ {除算}

* {乗算}

() {括弧}

[xxxxxx] {ロードセルのシリアル番号}

小数点と関数は以下の通りです。

ABS : ABS (値)、CEILING : CEILING (値)、COS : COS (値)

COHS : COHS (値)、FLOOR : FLOOR (値)

LN : LN (値)、LOG : LOG (値)

ROUND : ROUND (値)、SIN : SIN (値)

SINH : SINH (値)、SQRT : SQRT (値)、TAN : TAN (値)

TANH : TANH (値)

以下は、数式の例です。

[111111]+[234567]

2.5*[111111]

[111111]+2.0

(2*[111111])+100

(2204.62*[111111])/100

([111111]*2)/(2*[222222])

FLOOR [111111]

9-4. 説明 (Description)

ロードセルに関する情報を追加して（下図の赤枠内「説明 (Description)」）、その情報を実際の巻上げ作業の設定に使用している場合の参考にします。この情報は、プログラムおよびレポートの全体を通じてロードセルを特定するために使用されます。説明フィールドの初期設定は、自動的にロードセルのシリアル番号と同一になります。

RF Channel: 15, Load Cell: 111111

Description: 111111

Alarm Low Enabled: OFF, Alarm Low te: , Alarm Low Latch: OFF

Alarm High 1 Enabled: OFF, Alarm High 1 te: , Alarm High 1 Latch: OFF

Alarm High 2 Enabled: OFF, Alarm High 2 te: , Alarm High 2 Latch: OFF

Show Advanced Settings

必ず「保存 (Save)」ボタンを選択してから他の表示に移動してください。

9-5. アラームの設定 (Alarm Settings)

Alarm Low Enabled: OFF, Alarm Low te: , Alarm Low Latch: OFF

Alarm High 1 Enabled: OFF, Alarm High 1 te: , Alarm High 1 Latch: OFF

Alarm High 2 Enabled: OFF, Alarm High 2 te: , Alarm High 2 Latch: OFF

INSIGHT ソフトウェアから以下の 3 種類のアラームをローカルに作成することができます。

- Low アラーム

測定値が入力した「Low アラーム (Alarm Low)」の値を下回ったときにアラーム条件が満たされます。

- High アラーム 1

測定値が入力した「High アラーム 1 (Alarm High 1)」の値を上回ったときにアラーム条件が満たされます。

このアラームは警告レベルになります。

- High アラーム 2

測定値が入力した「High アラーム 2 (Alarm High 2)」の値を上回ったときにアラーム条件が満たされます。

このアラームはエラーレベルになります。

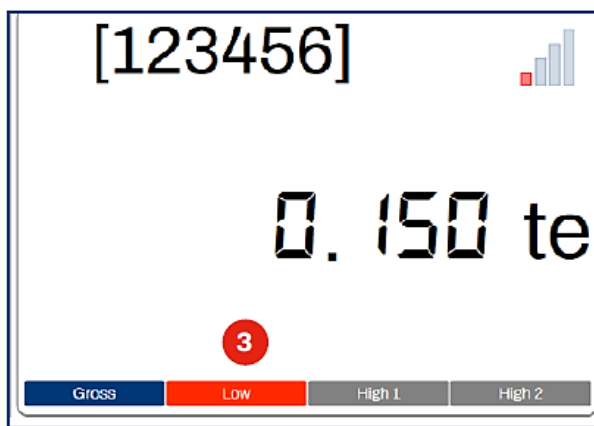
アラームを有効にするには、「Low / High 1 / High 2 Enabled」ボタンのいずれかをクリックしてオン（緑色）にします。

閾値を入力します。「Alarm High」の場合はこの閾値を上回るとアラームが起動し、「Alarm Low」の場合はこの閾値を下回るとアラームが起動します。値の単位は、事前に選択した単位になります。

最後に、アラームのラッチをオンにする必要がある場合は、閾値に一度到達してから「Alarm Low / High 1 / High 2 Latch」ボタンをクリックします。

上記のアラームは、各ロードセルまたは各数式に対して個別に機能します。入力する数字は、W.L.Lの割合ではなく絶対値とします。

アラームの閾値を超過すると、ロードセルの表示に赤でアラームが示され、PCのスピーカーから電子音が鳴ります。



例えば、Low アラームが設定されており、その閾値を超過した場合

アラームのラッチが設定されており、その閾値を超過した場合、アラーム条件が閾値以内に戻ってもアラームは継続します。

アラームを停止するには、右下隅にある通信「停止 (Stop)」ボタンを押し、必要に応じてディスプレイを再起動するには「開始 (Start)」を押します。

9-6. 詳細設定 (Advanced Settings)

「詳細設定を表示 (Show Advanced Settings)」のタブを展開すると、詳細設定が表示されます。

- **ゼロリセット (Tare)**

シャックルの重量などを相殺するための値をここに入力します。すべての Net または Gross の測定値からこの値が差し引かれます。

- **分解能 (Resolution)**

分解能はロードセルから読み取られ、試運転時に設定されています。W.L.L に基づく値のため、変更が必要になることはあまりありません。異なる分解能の複数のロードセルからデータを表示する場合、分解能を調整して他のロードセルと合わせることができます。

分解能は、データ値が取る「増減ピッチ」（例えば、分解能が 0.02 の場合、値は 1.02/1.04/1.06 などになります）を定義し、これによって測定値を表示する小数点以下の桁数が自動的に設定されます。

- **最大使用荷重 (数式用) (W.L.L (For Formula))**

この W.L.L は数式の計算用になります。過負荷の割合に従って、「過負荷」の警告が表示されるタイミングを決定します。

- **ゼロ点追跡 (Zero Tracking)**

ゼロ点追跡はロードセルから読み取られ、試運転時に設定されています。そのため、変更が必要になることはあまりありませんが、必要に応じて変更することができます。この値を下回るとデータ測定値がゼロとして表示されるよう、値を入力します。

- **重心 (Centre of Gravity)**

このオプションをクリックすると、ロードセルまたは数式を「重心 (Centre of Gravity)」の計算に加えることができるようになります。このオプションに関連するフィールドがさらに 3 つあります。

- **X および Y 座標**

（ローカルに規定した 0,0 点またはグローバル座標に対する）ロードセルの位置のローカル X および Y 座標を重心の計算用に入力します。値の単位は自由に選択することができます（メートルやフィートなど）。

- **単位 (Units)**

ローカル X および Y 座標の単位を「metres」などの文字列で入力します。

注意：ゼロリセット (Tare)、ゼロ点追跡 (Zero Tracking)、最大使用荷重 (W.L.L) の単位は、プロジェクト用に指定した単位が使用されます。

数式を使用してデータを表示する場合、その数式を構成する個々のロードセルも表示しなければならない点に留意してください。これは、システムの過負荷特性を保護するためです。

例えば、2 つのロードセル A および B (W.L.L は共に 12te) があります。2 つのロードセルを平行して並べ、 $[C] = [A] + [B]$ の式になるように使用して、手動で $[C]$ の式の W.L.L を 20te として入力する場合、W.L.L が各々 12te である個々のロードセル $[A]$ または $[B]$ は明らかに過負荷になるおそれがありますが、警告は生成されません。したがって、ロードセル $[A]$ および $[B]$ も表示する場合、各々の W.L.L がチェックされ、過負荷を発生させます。

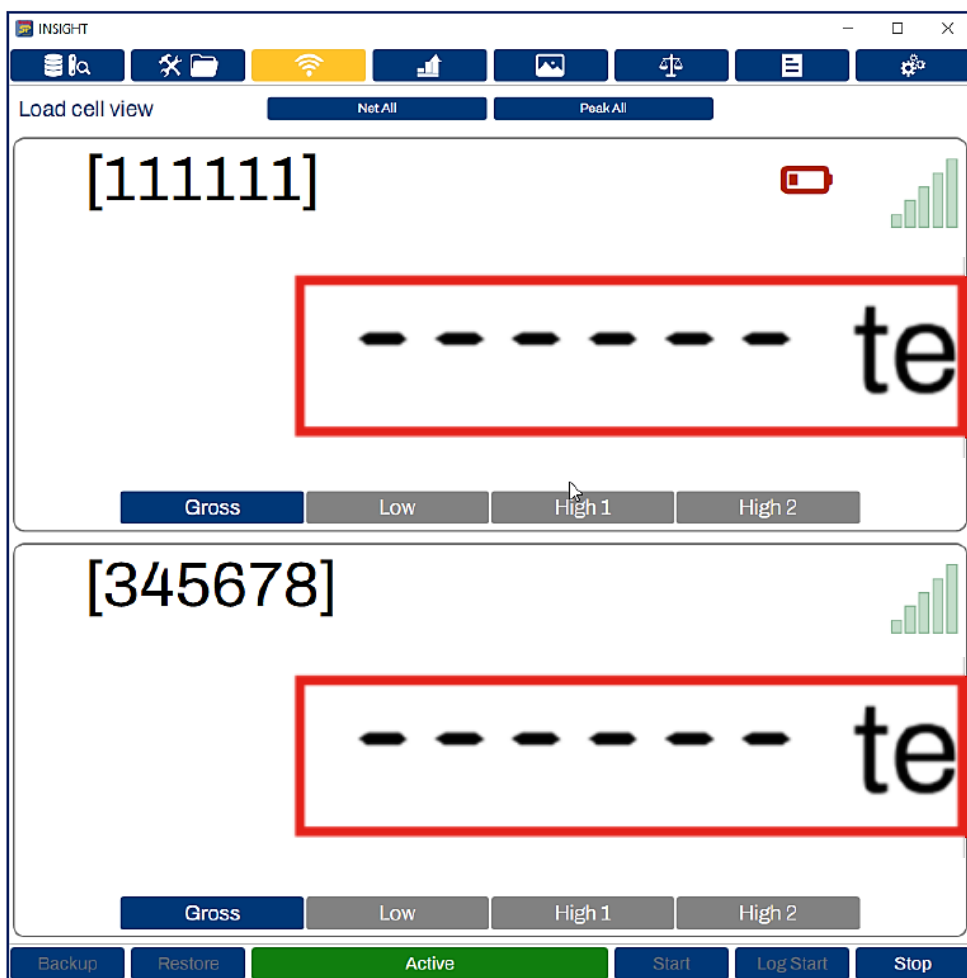
ロードセルに関するすべての設定をプロジェクトに保存するには「**保存 (Save)**」ボタンを押してください。

10. ロードセルのデータ取得

プロジェクトをセットアップして必要なロードセルを割り当てたら、ソフトウェアでロードセルのデータ測定値を表示して閲覧できるようになります。



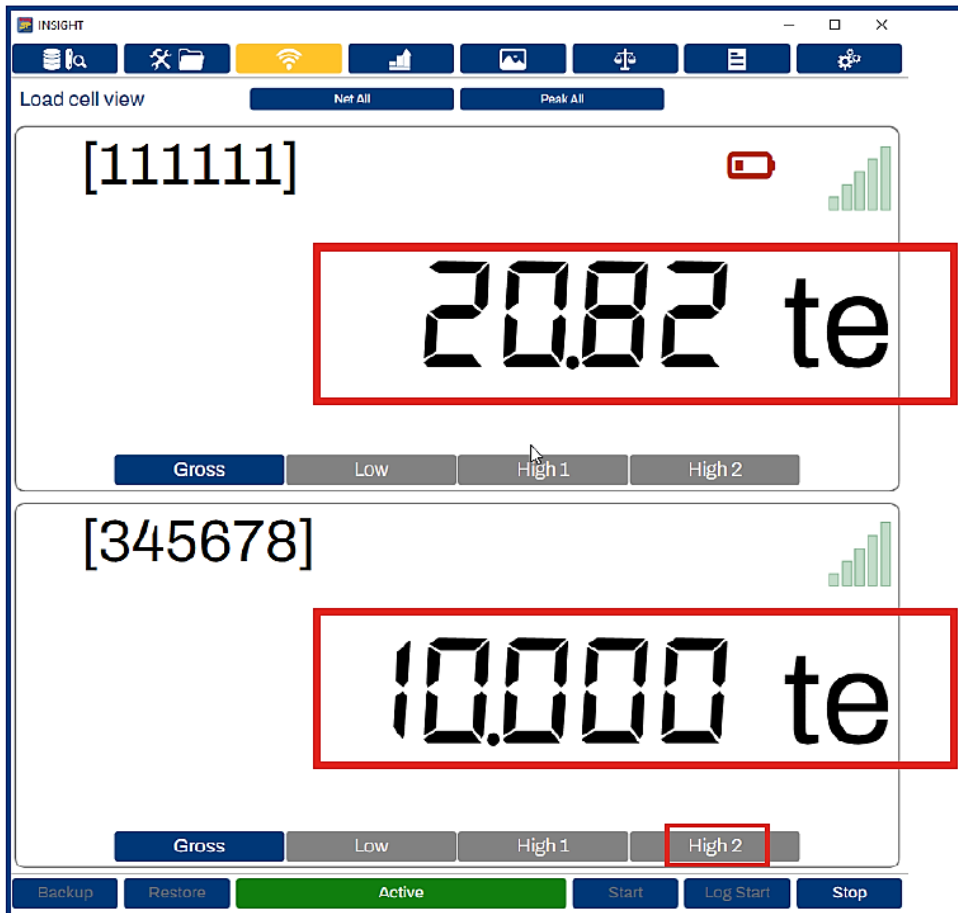
その後、プロジェクトに含めたロードセルと数式のマトリックスが表示されます。2つのロードセルがプロジェクトに含まれる例を以下に示します。



画面には、各ロードセルまたは数式の個々の入力が表示されます。それぞれが説明とデータ測定値を伴いますが、この例では、データ測定値の取得プロセスがまだ開始されていないため空欄になっています（上図の赤枠内）。

右下隅の「開始 (Start)」ボタンをクリックして、データ測定値の取得プロセスを開始してください。空欄の画面表示が終了して、測定値の表示が開始されます。

プロジェクトのセットアップページにある「プロジェクト (Projects)」から既存プロジェクトを選択することができます。同じ手順を使用してデータ取得プロセスを開始することができます。



この画面に「グロス (Gross)」または「ネット (Net)」の測定値を表示します。

どちらかを表示するにはこのボタンをクリックしてください。



この画面に「グロス (Gross)」または「ネット (Net)」の測定値を表示します。

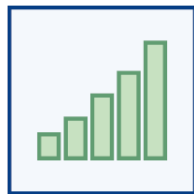
どちらかを表示するにはこのボタンをクリックしてください。



3種類のアラーム（「低 (Low)」、「高 1 (High 1)」、「高 2 (High 2)」）が表示されます。

11. ロードセルの表示アイコン

過負荷状態（「OVERLOAD」と表示）、ロードセルの内部過負荷エラー（「LC error」と表示）、校正時期、および電池残量低下についてのロードセルの警告およびエラーも表示されます。



RF 信号レベル

RF 信号レベルが 5 本のバーとして表示されます。データ測定値が表示されるときに、このバーに色が付きます。

OVERLOAD

過負荷の警告

ロードセルの値が、プロジェクトのセットアップパラメータの過負荷パーセンテージフィールドの値を超過したときに、表示されている測定値に代わって OVERLOAD が表示されます。



ロードセルのエラー

ロードセルが内部 mV/V 値を超過しました。このアイコンが消えない場合は、ロードセルをキトーへ返送する必要があります。



ロードセルの電池残量低下

ユーザーが新しい電池をロードセルに取り付けると消える一時的な警告です。



過負荷エラー

ロードセルの最大使用荷重（W.L.L）を超過しました（10%超え）。ストレインゲージ部品が損傷しているおそれがあるため、再校正が必要です。このエラーは、ロードセルの再校正を行うまで表示され続ける永続エラーです。



通信エラー

INSIGHT とロードセルの通信が一時的に、または永続的に遮断されました。ユーザーが STOP ボタンをクリックした、ロードセルに電池が取り付けられていない、または INSIGHT とロードセルの通信が途絶えている可能性があります。



校正時期の警告エラー

クロスビー・ストレートポイント社でロードセルの校正を行ってから約1年が経過しており、校正が必要です。このエラーは、ロードセルの再校正を行うまで表示され続ける永続エラーです。

12. ロードセルのチャート機能



メインチャート表示画面で、ウィンドウにこのグラフアイコンが表示されます。このグラフは、データの時間軸を常に動かして現在の時刻に合わせます。

画面の下に、グラフ表示期間全体を描写するシャドウグラフが表示されています。このグラフの上に長方形のシャドウブロック（カーソルの役割）が重ねて表示されており、現在のメイングラフに表示されているデータ部分を示します。このカーソルを（マウスを使用して）左側にドラッグして、時間軸の別の部分のデータをメイングラフに表示することができます。「**停止 (Stop)**」ボタンをクリックすると最も効率的です。STOP ボタンをクリックしないと、表示が現在の時間軸のグラフ表示に戻ってしまいます。

- 画面下の Start ボタンをクリックすると、自動的に Record ボタンが有効になり、データの収集とチャート化が開始されます。
- チャートの「**消去 (Clear)**」ボタンをクリックすると、画面上の両方のグラフが消去され、改めてチャート化が開始されます。
- チャートの Stop ボタンをクリックすると、データの収集とチャート化が停止します。
- 時間軸の横目盛りの拡大または縮小を行うには、マウスのスクロール・ホイールを使用します。
- チャートの別の位置を表示するには、マウスカーソルをクリックしたままにして、左または右にドラッグします。

- 「**最大数 (Max History)**」フィールドは、バッファが上書きされるまでに保存される測定値の数（実質的には表示されるグラフのサイズ）を示します。
- 記録の「**間隔 (Interval)**」は、データ測定値を蓄積し、表示を更新する間隔です。
- ロードセルの説明の横にあるチェックボックスをクリックすると、ロードセルがグラフから除去されます。
- Export ボタンをクリックすると、jpeg/png ファイルのハードコピーを作成します。
- 画像のサイズは、オプションのエクスポートサイズを変更することで、調整可能です。

13. 視覚化機能

ユーザーは、ロードセルのセットアップと位置決めを、画面に示された今現在のデータ測定値と、併せて提供される写真背景によって視覚的に確認することができます。



この作業は、ユーザーが右上隅の「画像ロード (Load Image)」ボタン (左側のアイコンを参照) でセットアップの画像をアップロードしてから、ロードセルのデータ測定ボックスを画面内のそれぞれの位置にドラッグすることによって完了します。



この作業が完了したら、右上隅にある「保存 (Save)」ボタン (右側のアイコンを参照) を選択します。

「保存 (Save)」を選択すると自動的にデータ測定が停止するため、保存の実行後にデータ測定を再開する必要があります。

視覚化のセットアップが完了していない場合、すべてのロードセルのデータ測定ボックスが左上隅に配置されて、1つのデータ測定ボックスとして表示されます。



14. ロードセルのレポート機能

「レポート」機能は、現在のロードセル表示の測定値を読み取り、プレーンテキストまたは HTML 形式のファイルとして、レポートファイルにエクスポートします。



「レポート作成 (Generate Report)」ボタンをクリックすると、ソフトウェアがテンプレートからレポートファイルを自動的に生成し、プロジェクト名を含むプロジェクトからのデータをレポートに入力します。レポートファイルはレポート出力ディレクトリにエクスポートされて、ユーザーが閲覧できるようになります。

この機能は、カスタマイズしたレポートを作成するためのトークンを含む独自のレポートテンプレートファイルを作成するフレキシビリティをユーザーに提供します。レポートの作成に必要な最小限の作業は、ユーザーがテンプレートファイルを編集または作成して、ロードセルのシリアル番号を挿入することです。

プレーンテキストまたは HTML ファイルで使用可能なトークンは以下の通りです。

トークン	評価対象：
++PN++	プロジェクト名
++DT++	日 月 2019 形式の現在の日付
++TM++	HH:MM:SS 形式の現在の時刻
++SD[xxxxxx]++	ロードセルの説明 [xxxxxx]
++SV[xxxxxx]++	ロードセルの現在のデータ値 [xxxxxx]

トークン化したプレーンテキストファイルの例を以下に示します。

プロジェクト - ++PN++

簡易なテキストレポートの例

日付： ++DT++

時刻： ++TM++

ロードセル	説明	値
[123411]	++SD[123411]++	++SV[123411]++
[123422]	++SD[123422]++	++SV[123422]++

これにより出力ファイルを生成します。

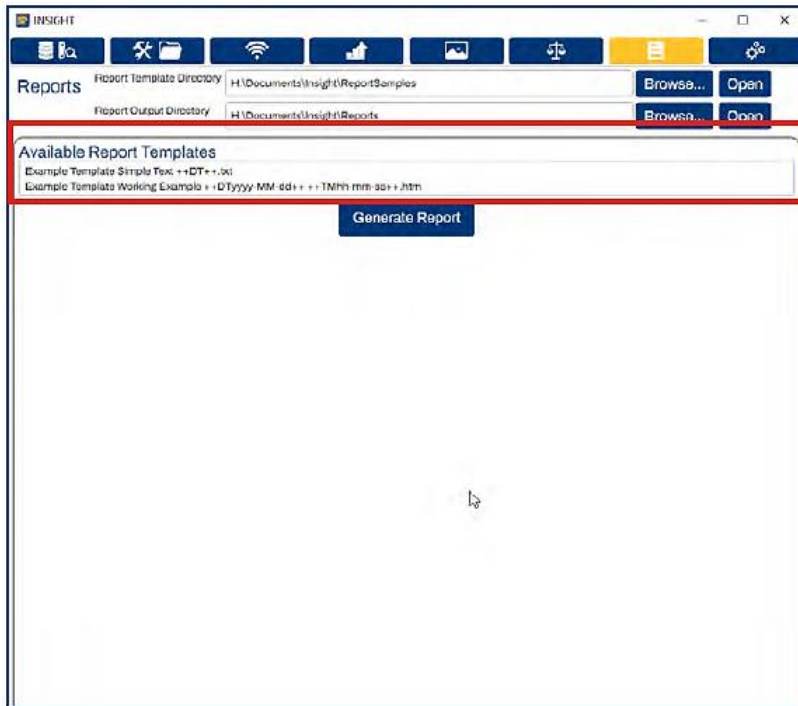
プロジェクト - *aproject*

簡易なテキストレポートの例

日付： *29 April 2019*

時刻： *16:39:05*

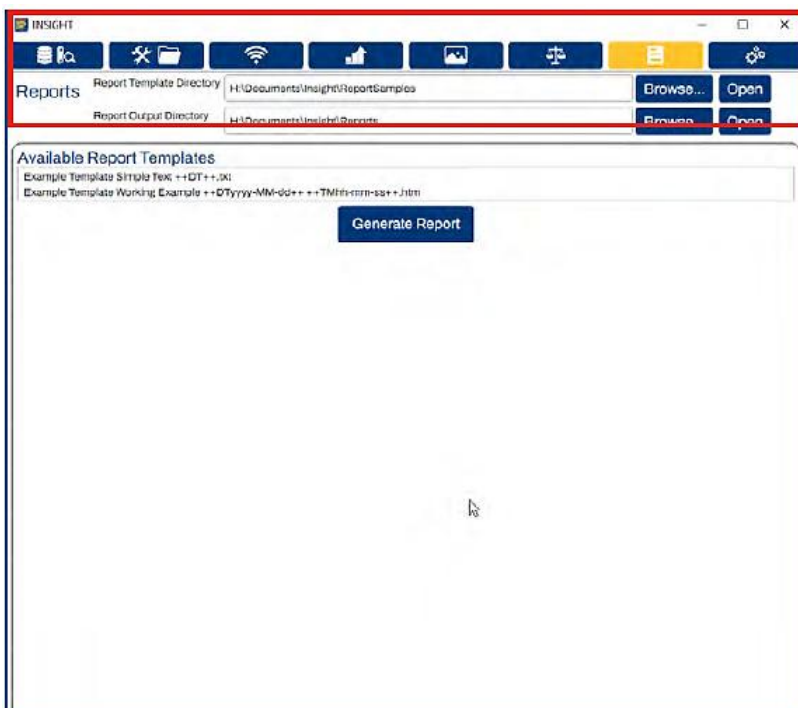
ロードセル	説明	値
[123411]	123411	23.36
[123422]	123422	20.80



レポートテンプレートのウィンドウから使用するテンプレートを選択します（ウィンドウには、提供されたトークンを使用してこれまでに作成したテンプレートがある場合、それらも一覧表示されます）。

レポートの作成方法：

1. 下図に示すレポートテンプレートファイル（利用可能なレポートテンプレート（Available Report Templates）ウィンドウに表示）を含むディレクトリを参照します。
2. 出力レポートを含むディレクトリを参照します。
3. 画面の右下隅にある「開始（Start）」ボタンを選択して、データ測定値の取得を開始します。
4. 「利用可能なレポートテンプレート（Available Report Templates）」ウィンドウ内のリストのうち、使用するテンプレートファイルをカーソルで反転させます。
5. 「レポート作成（Generate Report）」ボタンを押します。
6. レポートが作成され、新規に作成されたページに表示されて保存されます。



15. 重心 (CoG) 計算機能

本プログラムには、荷重の重心 (CoG) を計算し、画面上で視覚化して、レポートを作成する機能があります。

ユーザーが選択した単位での入力座標は、固定点と相対的になります。

ロードセルを CoG プロジェクトに使用するためには、ユーザーはまず、「プロジェクトの編集 (Edit Project)」のロードセルメニュー内の「詳細設定 (Advanced Settings)」セクションでロードセルの位置の X および Y 座標を特定する必要があります。CoG 機能を有効にして、ユーザーが選択した単位と共にロードセルの位置座標を入力する必要があります。

15. 重心 (CoG) 計算機能



CoG ロードセルの情報の入力がすべて完了したら、メニューバーにあるこのオプションボタンをクリックして CoG 画面に進みます。

Centre of Gravity

ここで、以下のジョブの詳細項目を入力して保存します。

The screenshot shows a data entry form with the following fields and values:

Company	Crosby Straightpoint
Client	ACME Lifting
Project	LP Lift
Project Number	AB1234
Operator	GRM
Wind Speed	2
Wind Direction	SSE
Temperature	15
Notes 1	Notes1
Notes 2	Notes2

A "Save" button is located at the bottom of the form.

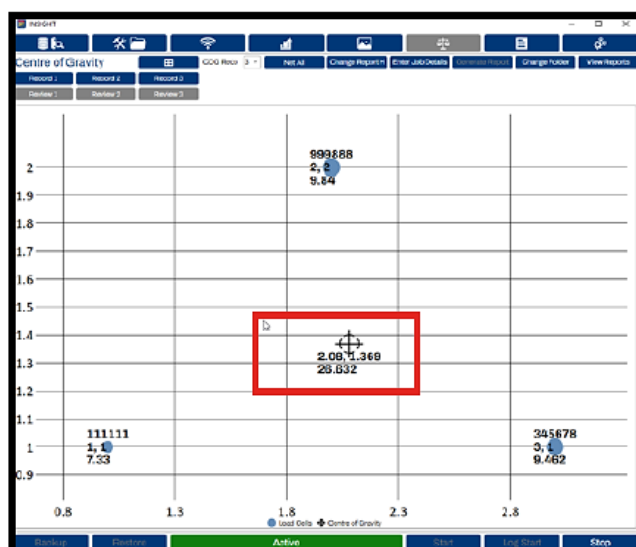
「フォルダの変更 (Change Folder)」オプションを使用して、レポートを受け取るための出力フォルダを変更することができます。デフォルト : c:\¥users¥your-name¥documents¥insight¥CoG

同様に、「レポートの変更 (Change Report)」オプションを使用して、アドレスの詳細やレポートに表示されるロゴ画像を入力することもできます。

データ測定値をまだ取得していない場合は、「開始 (Start)」ボタンをクリックして取得を開始する必要があります。データ値はロードセル表示画面や CoG 画面にも表示することができます。

CoG 画面は、ここで CoG の位置を表示しているはずですが、CoG に関するロードセルは、ロードセルの重量に応じた大きさの青色の丸として表示されます。

ユーザーは、使用可能な「Net All」ボタンを使用して、Net All / Gross All を実行することができます。



CoG は、左図に示されるように、丸に十字を刺した形で表示されます。

CoG 座標および重量が CoG と共に表示されます。ドロップダウンメニューから必要な記録数を選択します。


最大で 10 回の記録が可能です。

安定位置に到達したら、レポートの測定値を取得することができます。

荷重値を記録するには、「記録 1 (Record 1)」、「記録 2 (Record 2)」から「記録 N (Record N)」までの連続する記録をクリックします。

「記録 (Record)」ボタンは使用できませんが、測定したデータの値を確認することはできますので、必要に応じて、拒否とやり直しを行ってください。

レポートを作成するには、下図に示す「レポートの作成 (Generate Report)」ボタンをクリックしてください (HTML レポートが作成されます)。

		address1 address2 address3 address4 po9 1as			
Crosby Straightpoint		WEIGHING RESULTS			
		Project			
Date:	Tuesday, 11 June 2024				
Operator:	GRM				
Project:	LP Lift				
Project Number:	AB1234				
Client:	ACME Lifting				
COG Units	Weight Units				
meters	te				
Environmental Conditions					
Temperature		Wind Speed	Wind Direction		
15		2	SSE		
Coordinates					
Cell Position	Cell Description	X	Y		
1	[111111]	1	1		
2	[999888]	2	2		
3	[345678]	3	1		
Load Cell Input					
Cell Position	Description	Weighing 1	Weighing 2	Weighing 3	Mean
1	[111111]	7.3	7.3	7.3	7.3
2	[999888]	9.8	9.8	9.8	9.8
3	[345678]	9.6	9.6	9.5	9.5
TOTALS		26.7	26.6	26.7	26.6
COG Result					
	Weighing 1	Weighing 2	Weighing 3	Mean	
COG X	2.08340	2.08426	2.08324	2.08263	
COG Y	1.36809	1.36772	1.36904	1.36828	
MEAN TOTAL WEIGHT (T):	26.7			Mean Centre of Gravity	
Standard Deviation Weight:	0.05		COG X	2.08263	
Standard Deviation in Percent:	0.19		COG Y	1.36828	
Notes Notes1 Notes2					
	Name	Signature	Date		
Client Representative					
Customer Representative					

作成されたレポートはログ記録のディレクトリのフォルダ内にあります。このフォルダは、「レポートの閲覧 (View Reports)」タブを使用して選択することができます。

16. プルーフテストプラス (PTP) 機能



クロスビー・ストレートポイント社の INSIGHT プルーフ試験ソフトウェアパッケージにより、安全な距離を保った非破壊負荷検証またはプルーフ試験でのワイヤレスモニタリングが可能になります。試験データは試験証明書の形式で提供され、PDF レポートとして直接印刷することや、電子的に送信／保存を行うことが可能です。

代表的な用途を以下に示します。

- ウォーターバッグまたはブロックウェイトを使用したクレーン試験
- パッドアイまたはフライポイント試験
- ガードレール試験
- 支柱、Acrow prop (ジャッキポスト)、まぐさなどの建設機器の試験
- リフティングビームおよびスプレッダーバー
- 油圧シリンダの負荷試験
- スリング、チェーン、ワイヤーロープ、フックなどの吊り器具の試験

特長

- 使いやすいインターフェイス
- 完全ワイヤレス - ケーブルの損傷により発生する問題がない
- 試験箇所から安全な距離をとった 700m (2300ft) の通信範囲で操作が可能
- クロスビー・ストレートポイント社のすべての TS レンジ・ワイヤレスロードセルまたはロードシャックルに接続可能
- 最大 200Hz の速度でのログ記録データ
- クロスビー・ストレートポイント社のすべてのワイヤレスロードセルまたはロードシャックルに接続可能
- デジタル署名された合否証明書を自動作成
- リアルタイムで荷重・時間をグラフ表示
- 風速や海の状態などをメモできる自由入力フィールド

プルーフ試験を以下の一連の行動にグループ分けできます。

- 基準となるロードセルを含むプロジェクトを作成・選択
- 発行者の情報を入力 (通常 1 回のみ)
- 基準となるロードセルを選択
- 顧客情報を選択・追加
- 試験の情報を入力
- プルーフ試験の実施
- プルーフ試験のレポートを印刷
- エンジニアの代表者の情報を選択・追加

注意


クロスビー・ストレートポイント社のワイヤレスロードセルは、適切なロードセルユーザーマニュアル内の安全指示に従った取り扱いおよび使用を徹底してください。マニュアルはロードセルに付属しています。

クロスビー・ストレートポイント社のロードセルと併せて使用する他の機器 (ジャッキ、油圧シリンダ、チェーン、帯索、リフティングフレーム、その他のマテリアルハンドリング機器など) は、必ず、適切なメーカー／サプライヤ情報や関連するすべての規制要件と業界基準／実施基準に従って点検、検査、取り扱い、および使用を行ってください。

17. 発行者情報の入力

PTP 証明書の発行には、4 つのグループ情報が必要です。

- エンジニア情報のデータベース
- 顧客情報のデータベース
- 発行者情報のデータベース
- 試験情報

ほとんどの試験情報は、エントリーポイント画面から、またはプルーフ試験の進行中に個別に入力することができます。プルーフ試験を開始する前に、プロジェクトのセットアップ  オプションを使用して、プルーフ試験に使用する基準となるロードセルを含むプロジェクトを選択します。このプロジェクトには、プルーフ試験で使用する単位 (te、lbs、kg、kN) も設定されている必要があります。



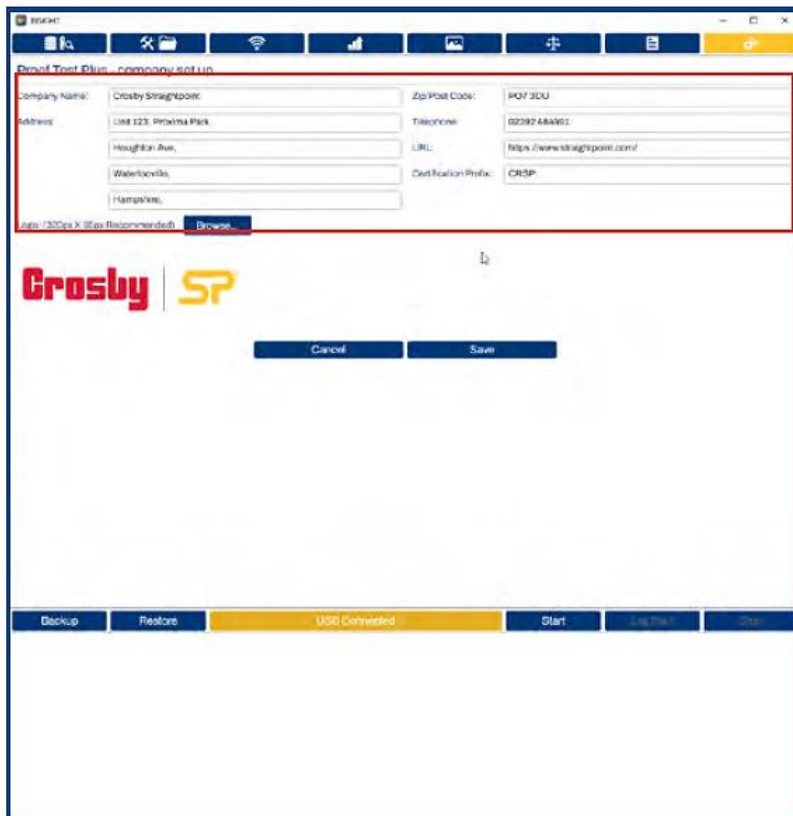
PTP を初めて起動した場合、以下のように証明書の発行者情報が求められます。

適切に情報を入力して、保存を選択します。

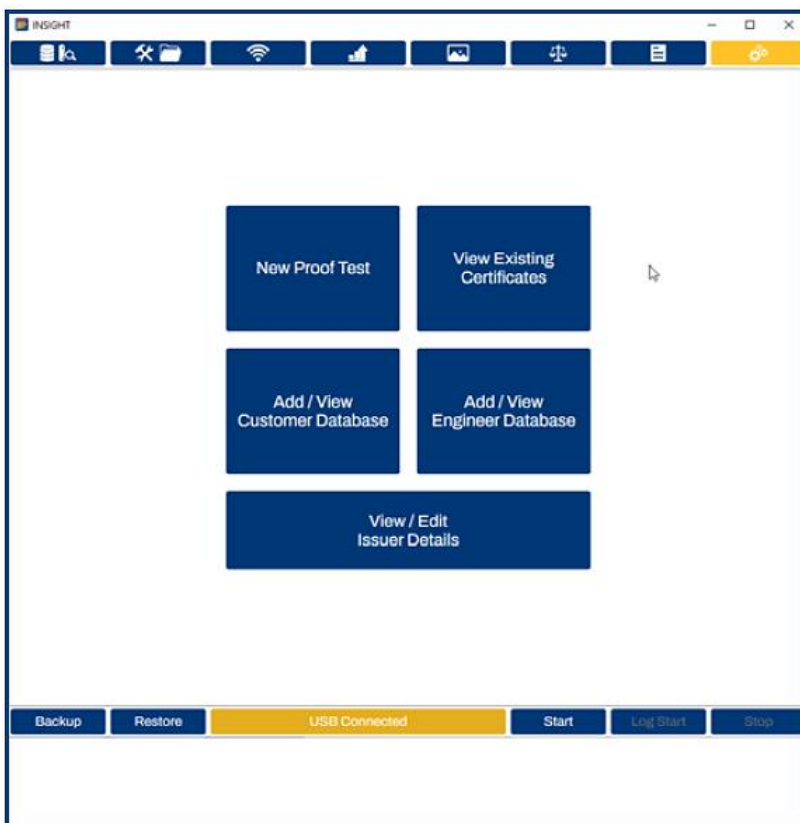
必要に応じて、PTP のメイン画面の「発行者情報を表示／編集 (View/Edit Issuer Details) 」オプションを使用して、これらの情報を編集することができます。発行者は証明書に記載されます。



このセットアッププロセスの1回目は、PTP 画面を表示中に完了する必要があります。セットアップ情報は、アクティベーションコードごとに異なります。この画面はアクティベーションをやり直さないと呼び出すことができないため、「保存 (Save) 」をクリックする前に、すべての情報が正しいか慎重に確認してください。




発行者情報を入力して保存すると、PTP のメインオプションメニューが表示されます。
PTP のエントリーポイント画面になります。

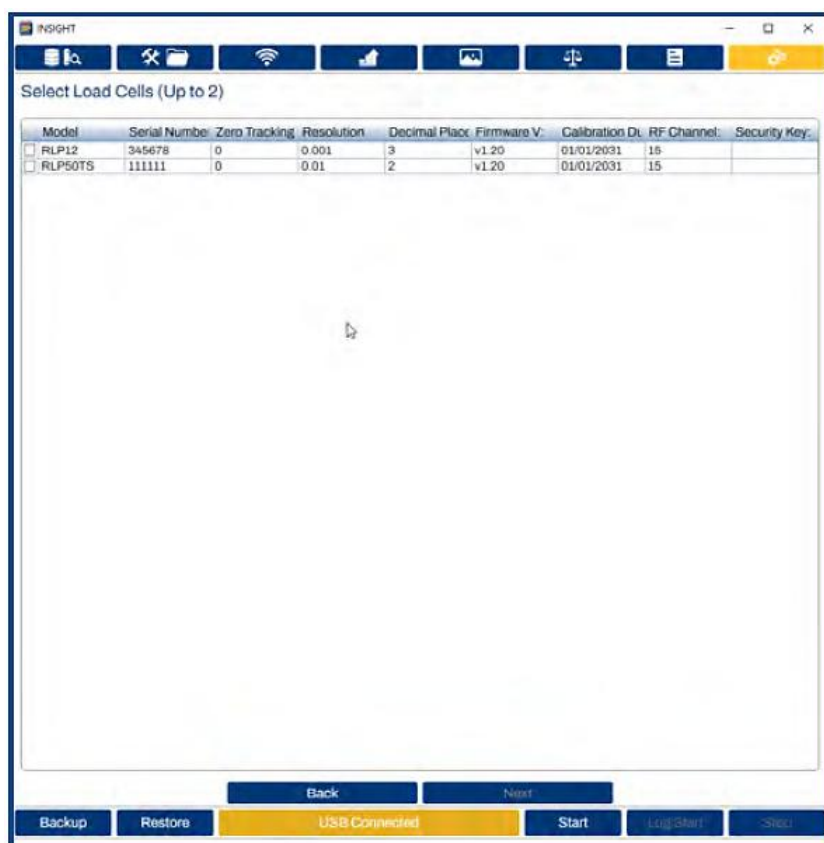


18. 新規プルーフ試験のプロセス

新規プルーフ試験 (New Proof Test) を選択して、試験のプロセスに進みます。

注意：前述の通り、プルーフ試験を開始する前に、プロジェクトのセットアップ  オプションを使用して、プルーフ試験に使用する基準となるロードセルを含むプロジェクトを選択します。

下記の画面では、選択済みのプロジェクトから最大2つのロードセルを選択して、試験に使用する基準となるロードセルを選択することができます。



お使いのロードセルが校正されていない状態の場合、警告メッセージがポップアップ表示され、継続するか、再スキャンを行うかを求められます。お使いのロードセルを直近で再校正した場合、INSIGHTが再校正日を認識しなかった場合があります。再スキャンを行うことで問題が解決する可能性があります。

ロードセル/ロードシャックルを再校正しなかった場合でも、試験を継続することができますが、最終の証明書には、メーカーが推奨する校正期間外のロードセル/ロードシャックルを使用して、試験が行われた内容が記載されます。

19. 顧客情報の入力

使用するロードセルを選択したら、Next ボタンをクリックして、以下の画面で顧客情報を選択または追加します。

Name	Address	Phone Number	Contact
<input type="checkbox"/> ACME company inc	Broadhurst Road, London, SW19 8	023 92 484900	Mr Colin Firth
<input type="checkbox"/> Customer Name	Customer Address	077429831	Customer Contact
<input checked="" type="checkbox"/> Douglas Crane	5 Grove Street, Birmingham, Engla	02592 891453	Dave Able
<input type="checkbox"/> Hawkwind	19 Belgrove Road, Carvey, Essex.	07742983121	Mek Mansfield

顧客が存在せず、新たに顧客を追加する場合、「顧客の追加 (Add Customer)」ボタンを使用して、情報を入力することができます。

顧客情報は、エントリーポイント画面の「顧客データベースを追加・表示 (Add/View Customer Database)」オプションから入力することができます。



顧客を選択したら、Next ボタンをクリックして、試験情報を入力する画面に進みます。

INSIGHT

Product Description:

Serial #:

WLL:

Test Method:

Notes:

Back Next

Backup Restore USB Connected Start Log Start Stop

テキストベースのレポート項目の情報を入力します。

INSIGHT

Product Description:
Sheal Winder Lift Proof

Serial #:
SHR-437-DF

WLL:
50tn

Test Method:
Lifting Sequence 4

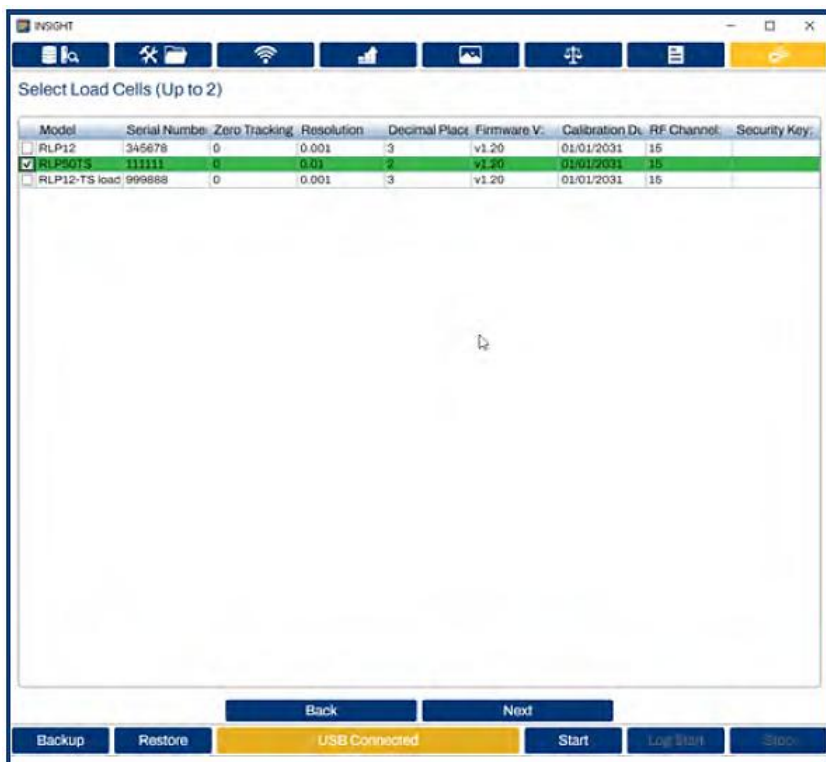
Notes:

Back Next

Backup Restore USB Connected Start Log Start Stop

19-1. エンジニア情報の入力

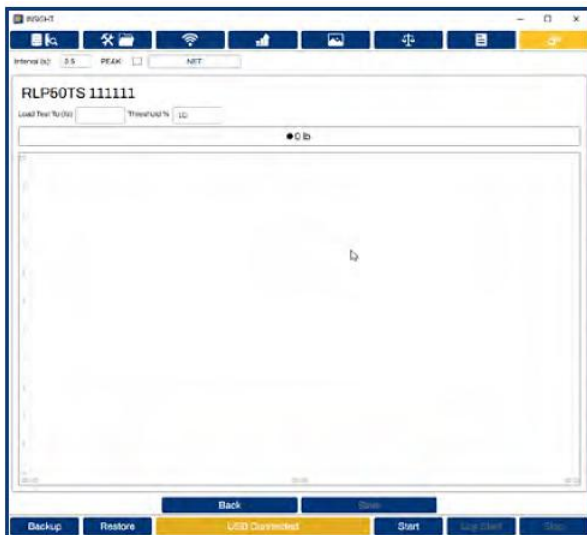
フィールドに正しく入力したら、Next ボタンをクリックして、次の画面に進みます。エンジニアの代表者の情報を入力・追加することができます。



エンジニアを追加したら、Next ボタンをクリックして、プルーフ試験を実行します。

19-2. プルーフ試験の入力と実行

負荷検証またはプルーフ試験を実行するには、まず、試験の適用範囲の詳細を入力します。



試験する負荷の値（「Load Test To」）を入力します。プロジェクトの設定で選択した単位が使用されます。

次に、閾値の割合（%）を入力します。これにより、ソフトウェアが加えられた負荷のログ記録を開始する点を定義します。

初期設定では試験する負荷の値の 10% に設定されています。例えば、「Load Test To」を 50te、閾値を 10% に設定している場合、値は 5te となります。

間隔（Read Interval）を入力します。初期設定では 0.5（秒）、つまり 1 秒間に 2 回に設定されていますが、1 秒間に最大 200 回までの調整が可能です。

必要に応じて PEAK のチェックボックスを選択します。このモードでは、ライブ負荷測定値とグラフで、試験中に得られたピーク値を維持・表示します。選択しない場合は、瞬時の荷重値が表示されます。

Net および Gross ボタンを使用して、これらのモードを切り替えます。Net は現在の荷重値をゼロオフセットします。すべてのデータを入力して、画面下の Start ボタンをクリックします。

測定値（下図の赤枠内）は以下のように変わります。

黒色 - INSIGHT とロードセル間の通信が遮断されています。

橙色 - 接続が正常に確立されたことを示しますが、値が閾値を下回っているため、グラフは表示されません。

緑色 - 値が閾値を上回っているため、グラフが表示され、記録が開始されます。

赤色 - 負荷値がプロジェクトのセットアップページに表示される過負荷パーセンテージで算出した値「Load Test To」を超過しています。通常、これは 101%の状態です。したがって、「Load Test To」を 50te、プロジェクトのセットアップのパーセンテージを 101%に設定した場合、測定値は 50.5te で表示されるでしょう。



画面上のグラフには、試験の進行に伴いデータが投入されていきます。同時に、Live Read ウィンドウには、現時点のスポット負荷測定値が表示されます。

値「Load Test To」に到達後、試験は完了です。Stop ボタンまたは Save ボタンをクリックすることができます（Save ボタンをクリックすると停止します）。

Stop ボタンをクリックした場合は、Save ボタンをクリックして、合否画面に進みます。

20. プルーフテストプラス (PTP) の実行

The screenshot shows the INIGHT software interface. At the top, there is a status bar with various icons. Below it, the text "Is this acceptable?" is displayed. A table shows the test results:

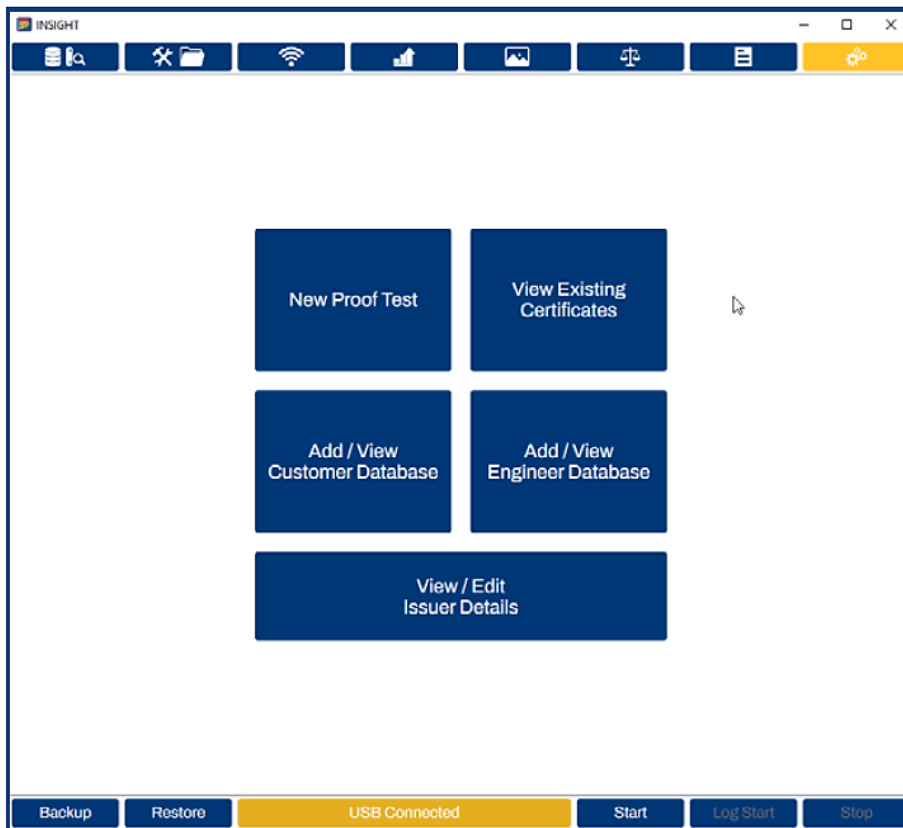
Load cell	Max (te)
RLP50TS 111111	30.22

Below the table are two buttons: a green "ACCEPTABLE" button and a red "UNACCEPTABLE" button. Underneath these is a "Notes:" label followed by a text input field. At the bottom of the interface, there is a row of buttons: "Backup", "Restore", "USB Connected" (highlighted in yellow), "Start", "Log Start", and "Stop".

何らかの理由で試験が不合格になった場合、Reject ボタンをクリックし、その試験を削除して、試験を再度開始することができます。試験が正しく実施された場合、証明書を作成することができます。負荷試験が不合格になった場合は UNACCEPTABLE ボタンをクリックします。または、負荷試験に合格した場合は ACCEPTABLE ボタンをクリックします。次に、Save ボタンをクリックし、証明書を作成して、試験を終了します。Save ボタンをクリックした後、PTP のメインメニューオプション画面が表示されます。既存の証明書を表示 (View Existing Certificate) オプションを選択して、以下のレポートと同様な試験レポートを表示・印刷することができます。

20-1. 証明書の表示方法 (View Existing Certificates)

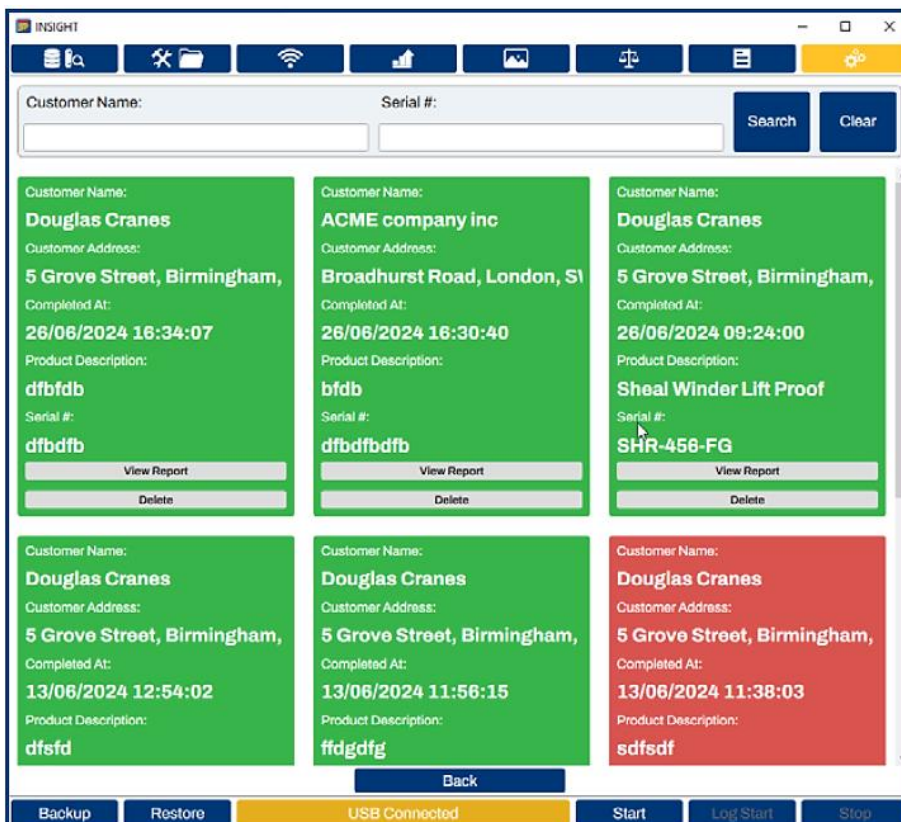
試験と前セクションのステップの完了後、システムは以下の画面に戻ります。



既存の証明書を表示 (View Existing Certificates)



をクリックすると、以下の画面が表示されます。



緑色に色付けされたリストは合格した試験リストです。赤色に色付けされたリストは不合格の試験リストです。顧客名または試験対象アイテムのシリアル番号を使用して、検索機能でレポート／証明書にアクセスすることもできます。

レポートの表示 (View Report) をクリックすると、試験証明書が画面上に表示されます。

レポート／証明書を削除するには、「Delete」をクリックして、レポート／証明書の削除の確認を求めるポップアップを表示させます。



レポート／証明書は、保存、印刷、Eメール送信、または、Microsoft Excel や他のプログラムにエクスポートすることが可能です。

試験が **UNACCEPTABLE** とみなされた場合は、負荷試験のグラフが表示されません。代わりに、不合格の注記が表示されます。

20-2. 各種データベースの管理



データベースのオプションを使用して、試験中の情報の入力を防止するために、ユーザーは各データベースにおける入力項目をオフラインで事前に入力・管理することができます。

顧客・エンジニアのデータベースでは、複数の入力が可能です。特定の入力項目に対して、データベースを検索して、修正することができます。

新規入力を追加するには、顧客／エンジニアを追加（Add Customer/Engineer）をクリックして、保存します。

顧客のデータベースを追加／編集

Add / Edit Customer	
Customer Name: ACME company inc. Address: roadhurst Road, London, SW19 9C Phone Number: 023 92 484900 Contact: Mr Colin Firth	Customer Name: Customer Name Address: Customer Address Phone Number: 077429831 Contact: Customer Contact
Customer Name: Douglas Cranes Address: a Street, Birmingham, England, BR Phone Number: 02542 891453 Contact: Dave Able	Customer Name: Hawkswind Address: 19 Belgrove Road, Canvey, Essex. Phone Number: 07742983121 Contact: Mick Mansfield

Name: Dore Ednor Living Ltd
Address: 12 Duffry Road
Phone Number: 28468 326 367
Contact: Dore

Buttons: Back, Save

エンジニアのデータベースを追加／編集

Add / Edit Engineer	
Name: Acme Engineer Engineer ID: ACEN ID1 Qualification: cab	Name: An Engineer Engineer ID: Engineer Id Qualification: Eng Qual
Name: Fred Windsor Engineer ID: WEQFB14532 Qualification: none	Name: Mr E R Scath Engineer ID: ID12233 Qualification: CMPT
Name: RS Dulate Engineer ID: 657893 Qualification: Ibar	

Name: Mr Robert E Dault
Engineer ID: EBNODE3
Qualification: CDDC

Buttons: Back, Save

発行者のデータベースを追加／編集

Proof Test Plus - company set up

Company Name: Crosby Engineering Zip Post Code: PO17 2DU
Address: Unit 123, Phoenix Park Telephone: 02300 434444
Houghton Ave. URL: https://www.crosbytest.com/
Waterlooside Customer Profile: CRSP
Hampshire

Buttons: Cancel, Save

発行者のデータベースは、プルーフ試験の証明書を発行する会社用のため、1回のみ入力可能です。

21. データのログ記録

ロードセルとの通信が進行中は、「**ログ記録の開始 (Log Start)**」ボタンをクリックして、ログの記録を開始することができます。「**開始 (Start)**」ボタンをクリックして、データがロードセルから読み込まれているときは、標準メニューオプションの多くが利用できなくなります。メニュー項目へのアクセスが可能な状態にするためには、スキャンまたは通信を停止する必要があります。

21-1. ログ記録データファイルのフォーマット

ログ記録データファイルは、指定されたログ記録ディレクトリ (c:\%users%\your_name\documents\insight\logs) 内に、以下のフォーマットに従ったファイル名で作成および保存されます。

Insight. 20YY-MM-DDTHH-MM-SS. csv

このファイル名のフォーマットは、地域的な日付および時刻の違いとは無関係です。

例： **Insight. 2019-04-25T10-48-38. csv** は、2019年4月25日の午前10時48分38秒に作成されました。

このファイルフォーマットは標準の CSV 形式で保存され、ユーザーが自身で選択したスプレッドシート内で読み込むことができます。

1行のヘッダーが付けられており、日付と時刻の後にロードセルのシリアル番号が記載されます。

例：

日付	時刻	経過時間 (ms)		
2019-07-02	11:31:53	5000	14.580	16.088
2019-07-02	11:31:58	10000	14.580	16.089
2019-07-02	11:32:03	15000	14.580	16.088
2019-07-02	11:32:08	20000	14.580	16.090
2019-07-02	11:32:13	25000	14.577	16.086
2019-07-02	11:32:18	30000	14.577	16.089
2019-07-02	11:32:23	35000	14.576	16.089
2019-07-02	11:32:28	40000	14.578	16.087

測定／ログ記録の間隔が1秒未満の場合、経過時間のみが関連しています。

21-2. バックアップおよび復元機能

INSIGHT には、バックアップおよび復元機能を使用して、プロジェクトと設定を保存する機能があります。



バックアップ機能は、偶発的なプロジェクトデータの削除から保護する目的で、定期的に使用します。

左下隅にある「**バックアップ (Backup)**」ボタンを選択して、INSIGHT のデータを保存します。この作業により、configuration.xml のファイルにデータが保存され、INSIGHT ディレクトリに初期設定されます。

「**復元 (Restore)**」ボタンを使用して、いつでもプロジェクトおよびデータを復元することが可能です。

「**復元 (Restore)**」ボタンの二次的なオプション機能は、クロスビー・ストレートポイント社から提供された既成プロジェクトおよびロードセルの情報をインストールすることです。

22. アイコンの説明

各アイコンの内容を説明するクイックガイドです。時系列（本製品内で登場する順）に並んでいます。



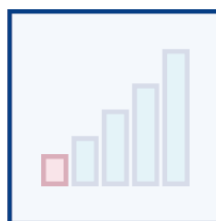
INSIGHT

このアイコンをダブルクリックしてプログラムを実行します。



ロードセルのデータベース

既存のロードセルをデータベース内に取り込みます。



RF 信号レベル

ロードセルの信号強度を示します。



プロジェクト設定

このアイコンをクリックして、プロジェクト設定の作成および編集を行います。



ロードセルのチャート

このグラフは、データの時間軸を、現在の時刻に合わせて、常に移動させます。



プロジェクト

既存プロジェクトのリストです。



画像のロード

データの視覚化用に写真をロードして背景を形成します。



アラーム

アラームの閾値の超過を示します。



保存

過去にロードした写真を保存（データの視覚化用に背景を形成するため）して、自動的に再ロードされるようにします。



ロードセル表示

ロードセルのデータ測定値を表示します。



レポート作成

このボタンをクリックすると、INSIGHT ソフトウェアが自動的にレポートファイルを生成します。



重心

このボタンをクリックして、重心の画面に移動します。移動したら、「Gross」または「Net」ボタンのいずれかを選択します。



プルーフテストプラス (PTP) ソフトウェア

このボタンをクリックして PTP 画面に移動します。

23. 品質保証書

製品をご購入いただき誠にありがとうございます。本保証書に基づき次のとおり保証いたします。

■ 保証の範囲

保証期間内において、取扱説明書、本体警告表示などの注意書きに従って使用したにもかかわらず故障・破損が生じた場合、本保証書記載内容に基づき無償にて修理いたします。

無償の修理は、製造保証元のストレートポイント社にて行います。ストレートポイント社はイギリスにありますので、修理には時間を要することを御承知ください。

なお、本製品の故障・破損に起因する損害（生産保証、休業保証など）については、補償いたしかねます。

このような事態が予想される場合には、あらかじめ代替機などを準備することをお薦めします。

この保証書は、日本国内において次の製品に有効です。

製品：INSIGHT

■ 保証期間

弊社、出荷日翌日から1年間といたします。

■ 保証の適用

この保証書は日本国内においてのみ有効です。

■ 保証対象外の事項

保証期間内においても次の事項に該当する場合は保証対象外とし、有償修理となる場合があります。

- (1) 定格以上の荷重で使用されたとき。
- (2) 製品仕様を超える環境で使用されたとき。
(ばい煙・薬品・塩害等の外部要因の存在または特殊環境下での使用)
- (3) 取扱説明書等に指定する保守点検および使用後の手入れを実施されなかったとき。
- (4) 保守、整備の不備または間違いによる故障。
- (5) 製品または付属品を改造したと認められるとき。
- (6) 純正部品を使用しなかったとき。
- (7) その他、取扱説明書等の指示に反して使用されたとき。
- (8) 地震、台風、水害等の天災及び事故、火災による損傷。
- (9) 使用損耗または経時変化に起因する不具合。

■ 修理の受け方

修理をお受けになる場合には、製品名称・モデルロット No.・シリアル No. を購入元までご連絡ください。

■ その他

- (1) 製品の発送前に、各製品が校正されていることを確認するためにあらゆる努力をしていますが、測定数値の誤差については責任を負いかねます。
- (2) ストレートポイント社の出荷時には、検査、校正、及び調整をしていますが、輸送中の破損など、何らかの理由で故障や不具合が生じる場合があります。

お問い合わせ先

■カスタマーセンター／Customer Center of Japan

東部カスタマーセンター	Tokyo	《TEL》0120-994-404	《FAX》0120-994-504
西部カスタマーセンター	Osaka	《TEL》0120-959-488	《FAX》0120-959-499
西部カスタマーセンター	Nagoya	《TEL》0120-929-965	《FAX》0120-929-966

■お客様相談センター／Customer Service Center

受付時間 9:00～16:00（土・日祝日を除く）

《TEL》0120-988-558

《FAX》0120-988-228

Website: kito.co.jp/contact/

■本社／Head Office

本社工場 Head Office & Factory

〒409-3853 山梨県中巨摩郡昭和町築地新居 2000

東京本社 Tokyo Head Office

〒163-0809 東京都新宿区西新宿 2-4-1 新宿 NS ビル 9 階

無断転載・複写禁止

本書は、事前の予告なく一部内容を変更することがあります。

本書または、製品に関するお問い合わせは、弊社もしくは販売店までご連絡ください。

本製品は日本国内での使用を前提として設計・販売されております。本製品を日本国外で使用する場合は、製品仕様が使用国の法令、規格へ適合していない可能性がありますので、事前に弊社までご相談ください。

また、本製品の日本国外での修理や部品販売などのアフターサービスには対応いたしかねますので、あらかじめご了承ください。



Website: kito.co.jp